

令和元年度第6回 印西市市民活動推進委員会 企画提案型協働事業 公開審査会（最終審査） 会議要旨

1. 開催日時 令和元年10月4日（金） 午後12時45分～4時30分
2. 開催場所 文化ホール 大会議室・多目的室
3. 出席者 粉川一郎委員長、椎名武博委員、安倉史典委員、林典子委員、
矢野眞理委員、藤澤進委員、足立秀一委員、樋口祥明委員、
志村はるみ委員、坂本富彦委員 以上10名
4. 欠席者 なし
5. 発表者 提案者5名（同席：提案者関連14名、市関連部署7名）
6. 事務局 佐瀬課長、金井係長、櫻井、鈴木
7. 傍聴者 10名（定員20名）

※議題（１）・（２）は、印西市情報公開条例第7条第5号により非公開。

8. 会議内容

（１） 令和元年度企画提案型協働事業 公開審査会（最終審査）／
スケジュール及び評価の確認について

（２） 令和元年度企画提案型協働事業 公開審査会（最終審査）／
最終提案の確認について

（３） 令和元年度企画提案型協働事業 公開審査会（最終審査）

①プレゼンテーションの進め方と審査方法等の説明

②プレゼンテーション

提案1 訪問傾聴ワーカー（見守り隊）養成講座（こむnetちば）

提案2 武西の里山 保全と調査事業

（NPO法人谷田武西の原っぱと森の会）

提案3 イノシシ等の獣害対策としての荒れた里山の整備事業

（NPO法人里地里山保全ねっと）

提案4 自主防災組織の活性化事業（印西防災研究会）

提案5 竹袋調整池と周辺地域の維持管理事業

（NPO法人エコネットちば）

③審査結果発表・講評

9. 審査記録

（３）企画提案型協働事業 公開審査会（最終審査）

①プレゼンテーションの進め方と審査方法等の説明

事務局説明

・本日のスケジュール及びプレゼンテーションの方法、注意事項について説明した。

②プレゼンテーション

提案１ 訪問傾聴ワーカー（見守り隊）養成講座、限定地域派遣事業（こむ net ちば）

提案者の発表

・パワーポイントを使い、関連部署との協議に基づく提案内容について説明を行った。

質疑応答

（質問）養成講座終了後の傾聴ワーカーは、誰が派遣するのか、市か、社会福祉協議会か、こむ net ちばか、どこに所属して派遣されるのか。

（提案者回答）市に傾聴ワーカー登録制度が無いので、こむ net ちばでスタッフ登録して、派遣していくと協議した。

（質問）派遣する場合、全てボランティアか、必要経費などはどのように手当てするのか？

（提案者回答）有償生活支援ボランティア（日当上限 5 千円）を参考に、日当上限 1 万円で予算は組んでいる。

（質問）予算はどこが出すのか、市か、受給者負担か？

（提案者回答）市です。

（質問）では、市が派遣する形になるということですね。協働事業後も、この事業は継続されていくと思うのだが、協働事業後の計画はどのように考えているか。

（高齢者福祉課回答）まだ詳しく詰めていないので、今後協議していきます。

（質問）傾聴ワーカーの方々は、費用負担は自分たちで、ボランティアとして活動することになるのか。

（高齢者福祉課回答）費用は市が負担します。

（質問）傾聴養成講座は素晴らしいのだが、資格のオーソライズ（公認・正当・正式な権限を与えられる等の意味）は、どうなるのか。傾聴ワーカーとしての資格をあたえ、例えば災害派遣などにも行ったりできるのか。

（提案者回答）講座受講生の実習についていきますと、受講生個々の能力に差があります。ですので、受講生ご本人の意思も含め、私（提案者）の評価、講座講師の評価を加味したうえで、派遣先を選定する。

（質問）ケースワーカーなどの能力認定は一般的に難しいといわれている。また、施設現場で対象者からいろいろ聞き出すのが難しいと聞いているが、このような場合のワーカーへの対応は。

（提案者回答）傾聴なので、対象者から話を聴きだすということはせず、対象者が話したい話を聴くことが基本となる。もし、話中で課題があった場合、そこが施設であれば、対象者の了解を得たうえで施設担当者等と連携する。

（質問）人件費や交通費の積算があるが、市から人件費をもらうということは、同時に責任が発生する。1 年のみの養成講座、スーパーバイザーは付くが傾聴の実

体験（スキル）がまだ伴っていない方が、市から人件費をもらい派遣されていくのには疑問がある。例えばインターンのような考えはないのか。

（提案者回答）受講生の全てが初心者ではなく、大半が傾聴経験者であることと、養成講座で派遣傾聴を行うための講義を重ねてきた。費用については、無償よりも有償のほうが、責任をもって行動してもらうためと考える。また、個人的な学習等による派遣員の個人負担の軽減を考慮した。金額については、高齢者福祉課と詰めていきたい。

（質問）受益者負担という考えはないのか。内部講師料とは何か。

（提案者回答）こむ net ちばに関わっている方に講師を依頼するので、内部講師料としている。

（質問）スケジュールに地域限定派遣員のフォローアップ研修が書かれていないようなのですが、フォローアップ研修回数と、派遣する場所や回数を教えてください。

（提案者回答）勉強会と明記してあるのがフォローアップにあたる。フォローアップは年6回、派遣はアンケート調査をもとに今後詰めいく。

（質問）派遣人件費の27万円の根拠は、どのようになっているのか。

（提案者回答）根拠に関しましては、上限1万円かける人数27名としている。

（質問）事業計画や経費、評価等、実務的にみて、担当課は、団体と協議・調整したうえで合意しているということによいのか。

（高齢者福祉課回答）本年度講座を受けていただいている方々の具体的な活用や来年度の講座内容など、予算の範囲内で今後詰めることはあるが、合意している。

提案2 武西の里山 保全と調査事業（NPO法人谷田武西の原っぱと森の会）

提案者の発表

・パワーポイントを使い、関連部署との協議に基づく提案内容について説明を行った。

質疑応答

（質問）新規で一般市民を公募する事業分の予算計上がないが、全て団体持ち出しか。

また、市と共催の自然観察会で、市は具体的にどのようにかわるのか。

（提案者回答）公募事業の保全作業は、既に団体として行っている事業で今回は協働事業の中で行い、経費は作業費の中に含まれ、予算内で賄える。自然観察会は、市開催の自然環境イベントの一部に協力する形となり、場所や移動手段の協力が市から得られると考えている。こちら経費は掛からない。

（質問）グリーンインフラについて、今後の検討ではあろうが、どんな機能や効果を考えているのかを教えてください。

（提案者回答）具体案は今後の課題ではあるが、一般的には自然とのふれあいや環境

学習があるかと思う。事業予定の中の学習会の中で、講師の方を招く機会もあるのでそのような中で、PRも含め検討していきたい。

(質問) 今後の活動の中で、効果を示せるよう健闘を祈ります。

(質問) 気象モニター測定器とは何か。

(提案者回答) 気温や湿度等を測定するものです。

(質問) モニタリング調査の結果の公表はどのようにしているのか。

(提案者回答) 昨年の2月に過去6年分の調査結果をまとめた冊子を作成した。図書館や市役所、関係機関に配布した。

(質問) SNS等もっと広く公表してはいかがか。

(提案者回答) 発表する機会をもっと設けます。

(質問) 保全作業に伴う事故等はないのか。また、保険に加入したりはしないのか。

(提案者回答) 過去大きな事故等はない。安全講習会も行っている。会員はボランティア保険に加入している。公募事業については、事業保険に随時加入している。

(質問) この事業についてどう見ているか担当課から一言願います。

(環境保全課回答) 貴重な自然環境のある里山だと認識している。市としては、まず貴重な環境の保全を考え、その後この場所をどのように活用していくかを検討していく。

提案3 イノシシ等の獣害対策としての荒れた里山の保全事業

(NPO法人里地里山保全ねっと)

提案者の発表

・パワーポイントを使い、関連部署との協議に基づく提案内容について説明を行った。

質疑応答

(質問) 整備予定地の範囲は広がってきているのか。イノシシがもともと生息していた範囲も整備しているのか。

(提案者回答) 事業を開始した時からは範囲は広がっているが、そこはイノシシが生息していない範囲であった。年々住宅域に生息域が近づいてきている。

(質問) 獣害として駆逐する一方で、共生という考えもあるのかなと。市としてはいかがか。

(環境保全課回答) いろいろな考えがあり、人間側からの視点にはなるのですが、イノシシが人間の生活圏に入ってくる要因は、イノシシの生息適正数が増えているためや人間の生活圏に入ってくるやすい環境があるためと考えられる。そこで人間とイノシシ、それぞれが住むべき場所の生息圏を確保することが、本件についての共生と考える。

(質問) 県の補助金事業との違いは。

(環境保全課回答) 県の補助事業は、農家対象で、自らの工作物を守るために、獣害対策費を補助するものであり、本協働事業は、自分たちの住環境と地域の保全のためであり、ゴールは同じに見えるが、この過程は全く別ものとする。

(質問) ジビエ料理に活用するなどの案はいかがか。

(提案者回答) イノシシの捕獲は、猟友会で行っており、私たちは、イノシシを捕獲する場所の提供を行うことがメインの活動としています。

(質問) 環境保全を行う上で人手不足は重要な課題であり、どの団体も悩んでいると考えられる中で、他の地域で同じような状況になった場合、ぜひ里地里山保全ねっこの手法を伝えていただきたい。

(提案者回答) はい。他の地域で活動する団体があれば、私たちも手法を、市とも共有しながらやっていきたいと考えています。

(質問) この場所は民有地だと思うのだが、今あるこの環境を今後も継続していけるように市として条例や規則などで対応していただけるように検討してほしい。
(矢野委員)

提案 4 自主防災組織の活性化事業（印西防災研究会）

提案者の発表

- ・配布資料を使い、関連部署との協議に基づく提案内容について説明を行った。

質疑応答

(質問) 自主防災組織を増やすことは必要なことである。しかし、連合会については、市内にも何種類もの連合会があるが、形骸化しているものもある。同じように形骸化しないか。連合会の運営費用はどうするのか。市で新たな補助制度のようなものを確立することが可能なのか。それとも自治会等に負担させるのか。また、地域によって自主防災の焦点が異なる。高齢者対応、水害対策、地震対策等、全てにおいて一律に対応することは難しいのではないか。

(提案者回答) 様々な連合会が形骸化している現状は認識している。ただ、今までの自主防災知識の蓄積、自治会等で自主防災に携わってきた方々の継続性、広域的な視点等から、今までの連合会というものではない何かしらの対策が必要であると考えている。もちろん費用に関しても同じであり、防災課と今後とも検討し続けていく。また、地域性による違いも認識している。地域により自主防災組織設置に大きな差がある。まずは、設置していない地域に危機意識や防災組織の必要性を伝えていきたい。

(質問) 自主防災組織がなぜ必要かということが良く理解できた。市に質問します。自主防災会が未設置の地域での避難対応は現在どうなっているのか。

(防災課回答) 避難対策として名簿の作成に現在取り組んでいる。とくに高齢者や障がい者への対応においては、有事の際に自治会や自主防災会に提供(本人等の許可を得たもの)できるように福祉部署と協力し、市の情報を提供できるよう調整しています。また、これとは別に自治会等は、自主防災として独自に情報を収集していると思われますので、随時適切に活用していただきたい。

(質問) 市に質問です。強化化する災害に対し市として防災対策や水準度合いはどう考えているのか。

(防災課回答) 市民に対しての意識啓発が大事であり、共助の力で災害に対応していくことが重要であると考えます。

(質問) 一度市の取り組みについて、評価をして現状把握や今後の対策に活かしてほしい。

(質問) 印西防災研究会の活動により、市内の自主防災会の数は増加したと言えるのか。

(提案者回答) 減ったり、増えたりしているのが現状です。

【指定テーマ】

提案5 竹袋調整池と周辺地域の維持管理事業(NPO法人エコネットちば)

提案者の発表

・パワーポイントを使い、関連部署との協議に基づく提案内容について説明を行った。

質疑応答

(質問) 掲示板の設置が提案されていたが、自然環境を提供するのであれば、掲示板は必要か。

(提案者回答) この場所は元が田んぼで、後に水生公園構想により改造しました。自然保護も大切ですが、地域住民の憩いの場としての機能も必要であると考えており、掲示板を設置する予定です。地域住民のいろいろな意見を聞いていきたいと思えます。

(質問) 市に伺います。池への流入土砂の状況についてはどう考えているのか。

(都市整備課回答) 治水対策という観点からも、団体と課題の共有化を図り始めたところではあります。

(質問) 掲示板に今までの軌跡等を掲示してみてもいいでしょうか。

(提案者回答) この貯水池の歴史を市民にお知らせすべきであると思えます。

③ 審査結果発表・講評

粉川委員長の進行のもと、各委員の評価を集計した審査結果を次のとおり発表した。

【審査結果】

提案	提案名（提案者）	○	△	結果
1	訪問傾聴ワーカー（見守り隊）養成講座、限定地域派遣事業（こむ net ちば）	8	2	適
2	武西の里山 保全と調査事業 （NPO法人谷田武西の原っぱと森の会）	9	0	適
3	イノシシ等の獣害対策としての荒れた里山の整備事業 （NPO法人里地里山保全ねっと）	10	0	適
4	自主防災組織の活性化事業 （印西防災研究会）	10	0	適
5	竹袋調整池と周辺地域の維持管理事業 （NPO法人エコネットちば）	10	0	適

※提案2は矢野委員が利害関係者のため審査には参加せず、9名で実施。

審査結果の発表後、粉川委員長及び志村委員長職務代理、坂本委員が模造紙に貼りだした各委員の意見を集約し、提案ごとに講評を行った。（下記参照：提案1～5）
最後に、粉川委員長が以下のとおり全体の講評を行った。

ここ数年地域運営組織や地域経営組織といわれる地域を運営するための市民側の組織をどう作っていくかが話題になっている。地域ができることは地域が行い、地域ができないことは行政が補うという社会である。これにより企画提案型協働事業はますます拡散していき、地域がより自主性をもって課題を解決していく社会へと変化すると考える。まさに今回の5つの提案は、地域で困っていることを改善するために生じた事業であると思います。世相を反映していると思います。そこで、提案者の皆さんができること、地域ができることを行政にぶつけ、自分たちでもたらしことかできる価値を行政に示し、行政は何ができるのかを聞き出すことが大切になる。このためにも行政とのコミュニケーションをもっと密にしていきたい。

提案1 訪問傾聴ワーカー（見守り隊）養成講座、限定地域派遣事業（こむ net ちば）

【各委員の意見】

事業計画についてのプレゼンがなかったが詳細を詰めてほしい

- ・具体的に事業計画についてのプレゼンテーションがありませんでしたので、判断のしようがなかったですが、市との大枠の調整から具体的に詰めを行ってください。
- ・費用計画の詰めが必要。市ともっと審査会までに詰めてください。今後詳細も詰めてください。

- ・費用計画の詳細をもっと詰めてください。
- ・報酬は人件費ではなく、交通費や出勤手当のような形のほうが良いのではないかと。民生委員等を参考にしてみてもいいかと。
- ・派遣事業については、事業としての形をしっかりと整える必要がある。養成として継続することはわかるので、まずこれをしっかり行いながら、体制検討をするのが良いのではないかと。

講座終了後の地域に密着した活動を期待

- ・養成講座終了後の具体的な派遣の姿が見えてこない。
- ・養成講座終了後の活動につながるように、担当課や関係先と連携を取り、仕組み作りを具体化願いたい。
- ・多機関との連携体制が整ってきているようなので、引き続き良好な関係を構築していただきたいと思います。
- ・地域との関係を着実に積んでおられるようで、地域に密着した活動が広がることを期待したい。

必要性は高い。行政の手が届かないニーズ対応のシステム作りを。

- ・本活動の必要性・重要性については社会的に十分理解されているものと思います。
- ・行政・公的機関では手が届かないニーズに対応する活動だと思うので、その良さをなくさないようなシステムを構築して、がんばってください。
- ・求められる事業だと思いますので、市とよく連携してトラブルのない様、活動していただきたいと思います。

派遣方法などの検討・方向付け

- ・傾聴訪問を行う回数を、想定でよいので明確化されておいたほうがよかったと思います。
- ・派遣に関してはフォローの中で実研修としてはどうか。

本講座で必要なスキルが確保できるのか。

- ・2年目は、養成講座そのもののグレードアップを考えたほうが良いのでは。
- ・印西市全体を包括するために、訪問傾聴ワーカーの必要数は。
- ・養成講座を受講すれば誰でもワーカーとして派遣されるのか。
- ・養成講座で十分なのか。

提案2 武西の里山 保全と調査事業（NPO法人谷田武西の原っぱと森の会）

【各委員の意見】

良い協働事業

- ・行政コスト（費用）が、このレベルで良くやっている。将来の事業の在り方も考えていく必要がある。（ポスト協働事業の在り方。）
- ・市民参加のイベントも増えて、市民への還元もあり、増々広め、活用していただけて、良い事業と思います。
- ・市（担当課）とよくコミュニケーションがとれていると感じました。ぜひ頑張ってください。

ステキな場所にステキな取り組み

- ・都市には必ずこうした里山を残し、保全し、それを活用していく視点が重要であると思います。
- ・印西市の財産として、住民が誇れるような場所となるよう期待しています。
- ・環境整備、生物多様性調査、他への呼びかけ、イベント等、バランスよく計画されています。

グリーンインフラ

- ・市とディスカッションしていただいて、グリーンインフラとして、今後の武西の里山についての方向付けを具体的に進めていただきたいと思います。
- ・グリーンインフラを訴えるのであれば機能と効果の明示をどう考えるか検討してください。（意義は大きいと感じます。）

人材確保

- ・新規で行う公募事業から会員獲得につながることを期待します。
- ・人材確保が難しい昨今ですが、継続できるように。
- ・対高齢化にともなう作業中の事故等についても配慮願いたい。

モニタリング調査、広く公開を

- ・モニタリング調査結果の公表について工夫する必要がある。
- ・モニタリング調査結果を幅広い形で開示できるようにしてください。

提案3 イノシシ等の獣害対策としての荒れた里山の整備事業

(NPO法人里地里山保全ねっと)

【各委員の意見】

事業がわかりやすくなった

- ・ビジュアル資料がふんだんに使われており、わかりやすくなった。
- ・協働事業の対象範囲と取り組みが明確になってきたと思います。事業計画と実施体制は明確に。

もう少し事業計画を明確に

- ・プレゼンテーションにある散策のための整備、ビオトープ等は予算上明示されていないが、計画として入っているのか。展開の可能性、方法の検討だけでもできるとよい。

地域住民の頑張りがすばらしい

- ・地域の方の力により、地域の環境確保の為、活発に活動しておられることは素晴らしい。担当課との連携も良いことや現役世代の参加等、運営もうまくいっているように見受けられる。
- ・地域の住民が地域の課題とし、団体が活動しているのは非常に重要なことです。一層のご活躍を期待します。
- ・住民の方が、安心安全に暮らせ、散歩も楽しめる環境作り、ご苦労様です。」今後も期待しています。

地域の新しいモデル

- ・里山整備のモデルケースとなり得る。民有地の山掃除については、別に考えていく必要がある。(補助金等)。
- ・いには野地域における行政と市民との協働事業の成功事例として進めていただきたいと思います。
- ・必要な事業であると考え。当該地域だけでなく、他の地域でも取り組みができるように応援すべき。
- ・印西市の他の地域の担い手の発掘とノウハウ移転をぜひ取り組んでください。

動物との共生の視点も

- ・イノシシ等の野生動物との共生案も考えてください。

提案4 自主防災組織の活性化事業（印西防災研究会）

【各委員の意見】

活動実績の評価

- ・高齢化は共通の課題であるが、具体的活動をしておられることが共助の輪を広げる活動につながっていると拝察する。
- ・これまでの活動の中で課題が明確になっており、関係団体との連携も深まってきていることが感じられる。

事業内容についての提案

【数値的なこと】

- ・実災害において、マニュアルどおりにいかないことが多いが、どの程度対応できるものをひな型として整備しているのか。
- ・連合会は中途半端に作ると形骸化しやすい。連合会の予算（運営費）はどうするのか、上納金などを求めることにつながるのでは。
- ・研修会3回で、どこまでの団体をカバーすることを目指すのか。

【有効策の検討を】

- ・なぜ自主防災組織が増えないのかを分析したうえで、事業計画を立てたらどうか。何が有効なのかを見極める必要もあるのではないのでしょうか。

【担い手】

- ・印西防災研究会10名だけの活動とならないようにしてください。
- ・研究会の参加人数をもっと増やせるような活動をお願いします。

【具体的な対策の検討を】

- ・今回の台風15号のような停電等の被害も含めて対策を考えていただきたい。電話が通じない場合の連絡等が懸念されます。
- ・地域運営組織と呼ばれる地域の新しい経営体の考えが広まっています。そうした新しい地域経営の育て方も学ばれると良いかもしれません。

市との連携の強化が必須

- ・市へ防災体制の不備・要望など、他市を参考にどんどん提案していただきたいです。

- ・市（行政）との連携の中での自主防災組織の活性化だと考えます。市と防災研究会との連携をどのように進めるかを是非詰めてください。
- ・自主防災会はどこも活動的ではないということではない。電柱の場所や本数などを確認できる地域もある。
- ・市は要支援者への支援が優先されるその時に住民による自主防災組織は重要となる。もう少し市が協働に前向きに取り組んでもいいのではないか。市が線引きしすぎているように聞こえる。
- ・印西市が本事業によって目指すレベル、２年間の達成度、３年目への期待を明確にしてほしい。

提案５ 竹袋調整域と周辺地域の維持管理事業（ＮＰＯ法人エコネットちば）

【各委員の意見】

活動を評価します

- ・総合的に見て良くやっている。
- ・これまでの実績も十分で今後も期待できる。将来は都市公園化すべき。
- ・次年度もしっかりと頑張ってください。

市民の参加プランを

- ・この協働事業に対して市民参加の機会が少ないと感じる。市民活動団体が実施する事業としてのアイデアがほしい。
- ・エコネットちばさんのために後継者を育成する具体的なプランを検討していただきたい。
- ・すっかり活動が定着し、環境整備がされている。単に下請作業だけでなく市民の集う調整池周辺作りという切り口で活動提案されており協働事業として良く運営している。
- ・花苗えをイベントにして、一般の方を巻き込んで、親しみやすさを更に出してはどうでしょうか。

今後の役割を具体化してください（調整池をどうするのか）。

- ・将来的な事業計画費を検討してください。
- ・市と団体との役割分担を明確化し、合意してください。
- ・市の計画として、具体化されることを希望します。

以上

令和元年１０月４日に行われた、印西市市民活動推進委員会の会議録は、事実と相違ないので、これを承認する。

令和２年１月１６日

会議録署名委員 粉川 一郎